

○提案内容

**(1) 実現したい都市のビジョン**

佐世保市黒島町におきましては、近年の人口減少に歯止めがかからず、また、高齢化率もついに50パーセントを超え、高齢化が顕著になっている。また、同時に、地域経済も沈滞し、島民の生活の先行きが憂慮されるところである。  
 (黒島の将来人口の推計(過去の人口推移の状況が将来続くと仮定した場合の推計))  
 平成30年7月:428人→平成32年:362人→平成37年:292人→平成42年:234人→平成47年:185人→平成52年:142人

このようななか、平成30年7月に構成資産「黒島の集落」を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連」が世界文化遺産に登録され、これを契機として世界文化遺産「黒島の集落」に多くの観光客が国内外から来訪している。  
 この黒島観光客の受入態勢の確立を進めているNPO法人黒島観光協会は、黒島を訪れる観光客の皆さまを温かくお迎えすると共に、再び、黒島を訪れて頂くために、観光受入施設「黒島ウェルカムハウス」を拠点として、島民一丸となったおもてなし活動に力を入れているところである。

また、この観光受入拠点「黒島ウェルカムハウス」では、観光案内、HPを活用した情報発信、電動アシスト自転車(有料)の貸し出しに取り組むと共に、地元のお土産や特産品の販売を行うなど、交流人口の増加に伴う地域活性化に向けた取り組みを行っているところである。  
 (黒島観光客数の推移)  
 平成25年:1,101人→平成26年:2,168人→平成27年:3,799人→平成28年:4,260人→平成29年:4,354人→平成30年:6,470人

今後、世界文化遺産「黒島の集落」については、持続可能な地域づくりが求められており、地域社会の維持と活性化並びに、地域のアイデンティティの形成による誇りの共有への取り組みを行い、「住んでよし 訪れてよし」の地域づくりを目指すものである。  
 さらに、「黒島」での取り組みをモデルとして、佐世保市の観光振興に繋げるものとする。

**(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題**  
 ※課題については、別紙2の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>※持続可能な世界文化遺産「黒島の集落」づくりへの取り組みについて                      (黒島の将来像の設定に向けた着眼点)</p> <p>◆来訪者に新たな移動手段を提供                      国内外の観光客を含む地域外からの来訪者との交流を活性化させ、地域活力の増進を図る際には、地域の移動手段の充実により、観光客の移動の利便性や回遊性を向上させる必要がある。                      黒島島内にはバス・タクシー等の公共交通機関がなく、電動アシスト自転車(10台)も限りがあるため、来訪者の島内における移動手段は徒歩とならざるを得ない。                      また、自家用車等のフェリー(黒島航路)積載も、同フェリーが島民の生活航路として位置づけられており、車両の輸送も限定的となっていることから、島内移動を補完する交通手段等の導入が求められている。</p>	
<p>◆文化財の観光資源としての活用                      文化財保護法では、「文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する」という、日本のみならず、世界的貢献という大きな理念が謳われている(第一章第一条)。そして、「文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないもの」とされ、なお「且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなす」「貴重な国民的財産」であり、「その保存が適切に行われる」とともに、「文化的活用にも努めなければならない」とされている(第一章第三・四条)。                      今後、訪日外国人旅行者が更に増加していく中、観光資源としても極めて有効な文化財の魅力を十分に感じ、楽しめるような環境整備が求められている。</p> <p>◆黒島観光客の受入を担う唯一の組織「NPO法人黒島観光協会」の体制強化                      黒島島民との連携による観光事業の創出、実践並びに地域情報の発信により、観光客の誘引および観光客の満足度の向上を図るとともに、島内外の人的交流を促進し、また、黒島の歴史、文化の継承、自然環境の保全、住民生活の向上を図り、地域の振興、人口減少の防止、地域住民の福祉の向上に寄与することを目的に設立されたNPO法人黒島観光協会の体制強化が求められている。</p> <p>離島地域では、過疎化・高齢化の進行により、地域の生産・生活・自然環境の維持・管理を担ってきた地域コミュニティの機能が低下することで、地域環境の維持が困難となり、それが地域人口の更なる現象に繋がるという負の連鎖が続いている。                      そこで、SNSなど新たな双方向メディアを活用した地域の情報発信や交流促進の取り組みを行うことで、時間的・空間的距離に制約されない新たな情報発信機会やコミュニケーションの場を創出したい。                      さらに、急速な高齢化が進む我が国では、65歳以上の高齢者人口は約3,500万人(平成29年2月)となり、高齢化率は27%を超えている。また、障がい者が約860万人、3歳児未満人口が約300万人存在しており、ユニバーサルツーリズムの主な対象者は、日本の人口全体から考えるとおよそ1/3に達している。                      今後、より一層の高齢化の進展が見込まれていることから、ユニバーサルツーリズムに取り組むことで、「高品質なおもてなしができる地域や施設」として認知をされ、持続可能な「黒島の集落」づくりの一助に繋がるものである。</p>	<p>ア                      ・                      オ</p>

### (3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

#### ◆来訪者に新たな移動手段を提供

##### 【モデル事業】

地域の移動手段の充実を図ることで、黒島島民並びに、来訪者の移動の利便性や回遊性を向上させるために、歩行をアシストするためのパーソナルモビリティ等の新たな技術の導入を検討したい。

(補足の取り組み)

・国の重要文化的景観に位置づけられている「黒島」における道路等の危険箇所などを、車載カメラ等により情報収集を行う。

##### 【モデル事業を支える取組み(例)】

・シェアリングエコノミーについて

#### ◆文化財の観光資源としての活用

##### 【モデル事業】

文化財の多言語解説の充実やVR等最新技術(高精細レプリカ)を活用した新たな世界遺産「黒島の集落」の魅力発信を行いたい。

##### 【モデル事業を支える取組み(例)】

・ARにより現地で文化財の付加情報(文字・映像)をスマートフォン等での提供について

・世界遺産「黒島の集落」の集客の中核である「黒島天主堂」保存修理工事が2年間実施されることから、工事期間中においても黒島への集客を図るために、GOPRO等最新技術を活用した動画制作について

##### 【モデル事業】

・デジタルサイネージ、VR等最新技術を活用した情報発信並びに案内サービス等について、多言語で対応する。

(AI機能を活用し、シームレスな黒島への案内サービスの提供)

・視覚に障がいのある方等が黒島を訪れた際に、黒島観光を楽しめ、誘導案内を可能とするためのツール制作を行いたい。

##### 【モデル事業を支える取組み(例)】

・「Tebura」等の手荷物預かりシェアリングサービスの提供について

・地域おこし企業人交流プログラムを活用した体制強化について

### (4) 解決の方向性(イメージでも可)

#### ◆来訪者に新たな移動手段を提供の今後の方向性

- ・パーソナルモビリティ等新たな技術を活用した自由で便利な移動手段の提供
- ・シェアリングエコノミーの導入等による住民や来訪者の自由な移動を、住民自らがサポート
- ・子どもから高齢者までが自由に快適に、安心・安全な移動の実現

#### ◆文化財の観光資源としての活用の今後の方向性

- ・文化財の多言語解説の充実やVR、AR、GOPRO等最新技術による魅力の発信

#### ◆黒島観光客の受入を担う唯一の組織「NPO法人黒島観光協会」の体制強化

- ・持続可能な「黒島の集落」を目指すために、地域にお金落ちる仕組みづくりの構築
- ・高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加が出来る旅行の実現
- ・ソーシャルメディアを活用した離島地域の活性化

### (5) その他

◆地域交通が無い地域に交通機関を導入するためには、自動運転システムの導入だけではなく、車両点検の実施を可能にしなければならぬことから、遠隔地で車両点検が出来るシステムの導入が望まれる。

◆黒島と同様に、離島の宇久島においても、自由で便利な移動手段の確保が望まれていることから、離島における新たな交通手段の検討が望まれる。

◆佐世保市では、「海風の国 佐世保・小値賀観光圏」を中心に、日本遺産、世界文化遺産等の各構成資産へのスムーズな案内が必要となっており、スマホの衛星利用測位システム(GPS)や画像認識機能とAIなどを組み合わせ、目的地までのシームレスな周遊ルートの案内体制の整備が望まれている。

◆現在、佐世保市三浦地区には多くのクルーズ船が入港している(16万トン級クラス)。

加え、佐世保市では、本市浦頭地区に新たに国際クルーズ拠点の整備が進んでおり、同拠点が整備されると、年間400回の寄港が期待されている。

今後、多くのクルーズ船の寄港に併せ、外国人観光客が乗車した大型バスが市内を周遊することになることが予測されることから、観光地の交通混雑を解消するために、交通需要を調整する仕組みづくり並びに、大型バスの移動状況が把握できるシステムづくりが望まれている。

### ○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
佐世保市観光商工部観光課	古川	0956-25-9639	<a href="mailto:kankou@city.sasebo.lg.jp">kankou@city.sasebo.lg.jp</a>